

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	我孫子市子ども発達センター ひまわり園		
○保護者評価実施期間	令和8年1月5日		～ 令和8年3月24日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	43	(回答者数) 42
○従業者評価実施期間	令和8年2月26日		～ 令和8年3月6日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	22	(回答者数) 22
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月26日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもと保護者のニーズや課題に合った支援	ニーズや課題を的確に把握し個別支援計画につなげられるよう、担任や児童発達支援管理責任者など職員が連携しています。合わせて面談等で保護者から聞き取りをすることでよりよい計画作成に努めています。実際の支援にあたっては、療育前後の職員間での打ち合わせ、必要に応じて個別療育担当者や他専門職との情報交換等を行い、より良い支援方法を検討しています。	多職種(保育士・心理相談員・作業療法士・理学療法士・看護師・管理栄養士等)が連携し意見交換や共有をすることで、子どもと保護者にとって、より適切な支援の方法を模索していきます。
2	きめ細やかな支援を行うための体制づくり	ひまわり園ではきめ細やかな支援を行うため、子ども3人に対し職員1人の配置をし、活動や目的に応じて配置を調整しています。また、今年度は目的別クラスでの療育を行い、小集団活動の中でもできるだけ個々の目標や課題に合わせた支援ができるように取り組みました。	クラス編成や職員配置についての調整がしやすい体制整備をすることで、より柔軟に個々に合わせた支援が行えるよう検討していきます。
3	療育環境の構造化	療育の効果を上げるため、パーテーションの使用や机や椅子、使用する物の配置などに配慮しています。また、写真やカード、マクソンサインを使用することで、子どもの理解を促し、かつスムーズなコミュニケーションが行えるよう工夫しています。	より個々の課題や目標に合った支援ができるよう、構造化の方法や効果を職員間で共有し検討していきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	ひまわり園の日常療育に付随する事業や、保護者への情報の周知	今回のアンケートを通して、いくつかの項目について「知らなかった」「わからない」等のご意見をいただきました。市のホームページやX(旧ツイッター)での発信や当センター内での掲示や配布物を通して情報提供を行っていますが、周知されていない部分もありました。	ひまわり園での日々の療育以外の事業で「わからない」という意見が多く見られました。ひまわり園の療育に付随する事業や、保護者が参加できる事業など、子ども発達センターで実施しているすべてのことについての必要な情報が周知されるよう情報発信の方法を検討していきます。